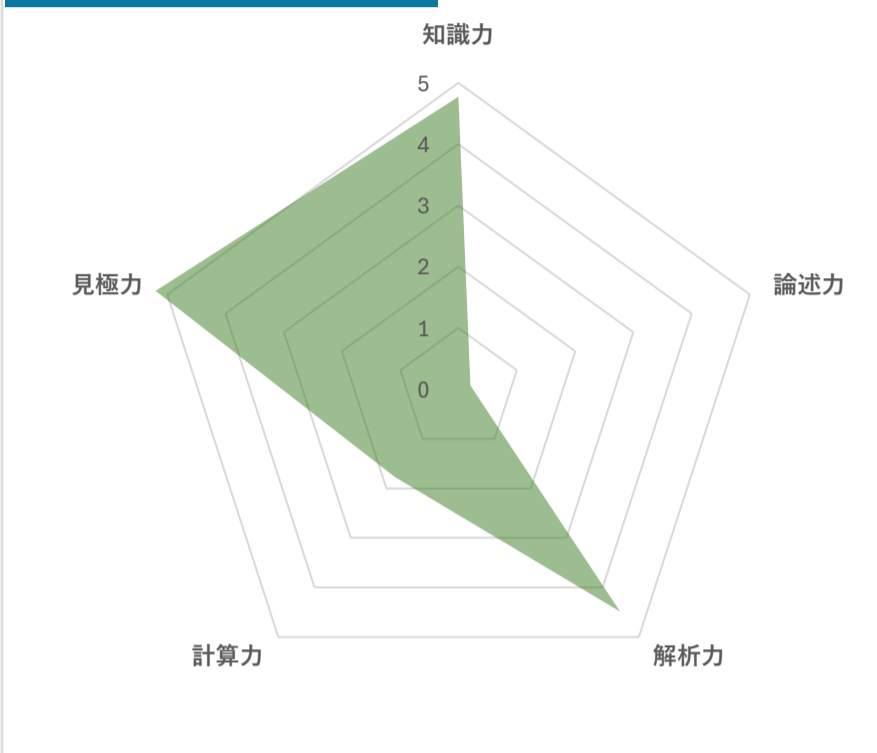


総合分析

試験区分	一般 (1日目)
------	----------

制限時間	70分 (生物単科70分)	大問数	全 5 問
------	---------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)

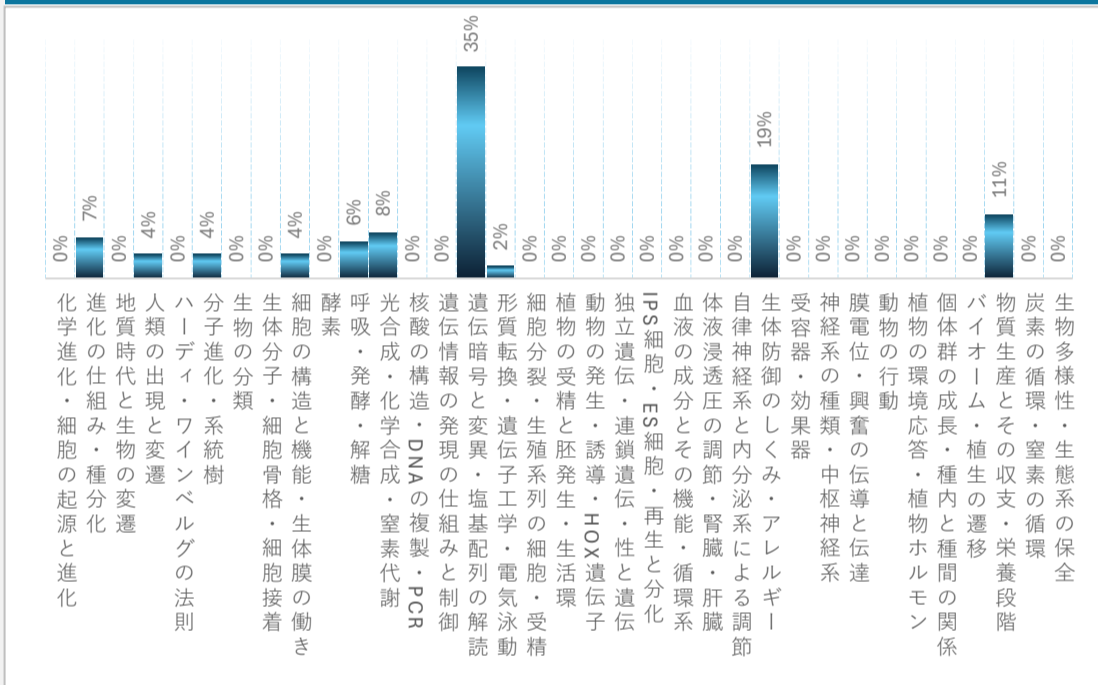


出題分野	
系統と進化	15%
生命現象と物質	18%
遺伝子	37%
生殖と発生	0%
生物の環境応答	19%
生態	11%

本年度 解答形式
選択肢 100%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	代謝とエネルギー
第 2 問	生態系の物質生産・窒素の循環
第 3 問	人類の進化・無根系統樹
第 4 問	エームズ試験
第 5 問	デビル顔面腫瘍病の感染の仕組み

本年度 出題詳細分類



合格に要する能力 (5段階)		
知識力	4.6	出題分野の幅広い知識を有するか
論述力	0.0	設問の指定に沿って的確に記述する力
解析力	4.3	図表データなどから分析・解析する力
計算力	1.6	式を組み立て、正しく計算する力
見極力	5.0	難度を判断し、適切に時間配分する力

特殊問題の有無	数理生物学なし	生物物理なし	ノーベル賞あり	範囲外問題なし	長文論述なし
---------	---------	--------	---------	---------	--------

特記事項: ノーベル賞関連の内容や大量の計算問題が出題された。

総合評価

難度	3.0	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率 (予想)	71%
分量	75分	完答に要する時間 (制限時間は70分)	やや多い	高い正答率を要する	

**入試の特徴と対策**  
 ▶ 大問ごとにテーマが一貫している。分野を横断する融合的な大問がほとんどない。

**入試から見る大学が求める学生像**  
 仮説を検証する実験考察型問題が出題された。デビル顔面腫瘍病やエームズ試験など興味深い題材が扱われた。これらはかつて東京大学や京都大学も出題したテーマであるが、難度を抑えつつ、思考力を試す内容になっている。また、2022年のノーベル賞関連の出題 (人類の進化) も見られた。さらに、簡単だが面倒な計算など、処理能力を試す設問もあった。全体として、知識や思考力、処理能力の高い学生を求める出題内容だった。